

平成 22 年度 鹿島市立古枝小学校学校評価表

1 学校教育目標

- 一人一人の子どもの知・徳・体を磨き、たくましく生きる子どもの育成を図る。
- 郷土のよさを知り、人間性豊かな古枝の子どもの育成を図る。

2 学校経営ビジョン

めざす学校像（信頼される学校）

- ・確かで、豊かな学びのある学校
- ・明るく礼儀正しい学校
- ・一人一人のよさが生かされる学校
- ・落ち着き、整頓された学校

めざす子ども像（元気いっぱい・やる気いっぱい・優しさいっぱい）

- ・「早寝早起き朝ごはん」を実行し、元気な返事ができる子ども
- ・集中して話を聞くことができ、家庭学習をがんばる子ども
- ・気持ちのよい挨拶ができると共に、トイレスリッパを整える子ども

めざす教師像（教育愛と創造の教師）

- ・魅力ある授業展開、迫力ある指導ができる教師
- ・一人一人の個性や能力を見極め、指導に生かす教師
- ・子どもとともに歩み、率先垂範する教師
- ・子どもや保護者・地域社会から信頼される教師

3 本年度の重点目標

- ① 学力向上の推進
- ② 豊かな心を育む教育の推進
- ③ 生徒指導、健康安全教育の徹底
- ④ 魅力ある学校づくり事業の推進

4 前年度の成果と課題

成果としては、学校目標の具現化に向けて、地域住民・保護者の積極的な協力と支援を基盤に、一定の成果を収めることができた。さらに、昨年度から実施した学校関係者による評価も職員の学校経営への参画意欲を高める結果となった。課題としては、本年度は校内の校務分掌組織及び評価項目等の精選を図っていきたい。

5 総括表

領域	評価項目	評価の観点	具体目標	具体的方策
学 校 運 営	○学校経営方針	・本年度のめざす子ども像及び重点目標の周知	・児童にはめざす子ども像の周知を95%以上とし、保護者には重点目標まで周知しているを70%以上にする。	・保護者へは、PTA総会・学校だより等様々な機会に説明していく。 ・児童へは、全校朝会や担任による学級指導等で周知を図る。
	○危機管理体制の整備	・学校内外の危機管理体制の整備	・保護者、地域住民、教職員の80%以上が学校の安全への取組みを評価することができる。	・不審者対応避難訓練を実施する。 ・地域と連携した防犯活動を推進する。

教 育 活 動	○学力の向上	・基礎学力の向上	・C R T検査で各領域での全国平均を下回らない。	・特設タイムや授業始めのスキルタイムを設定する。 ・児童の実態に応じて、T Tや少人数等の指導法の改善に積極的に取り組む。
	●心の教育	・道徳の時間の充実 ・人権意識の高揚	・年1回、道徳の授業を公開する。 ・年1回人権週間を設定し、児童の人権意識を高める。	・保護者の参観を促すため、事前に学級通信等で、学習内容やねらいを知らせる。 ・鹿島市の人権標語などの取組みを活用する。 ・支援や配慮が必要な児童の個別支援カルテを作成し、職員の共通理解を図る。
	●健康体づくり	・運動習慣の定着化 ・望ましい生活習慣の形成	・年3回(学期に1回)全校児童を対象とした体育的行事を企画し、それに向けて、がんばり週間を設定する。 ・基本的生活習慣の定着率を90%にする。	・体育的行事に向けてがんばり週間を設定し、運動への取組みを奨励する。 ・「早寝・早起き・朝ご飯」を奨励し、家庭への啓発を行う。
	○読書活動	・読書活動の充実	・年間読書冊数を1人平均100冊以上にする。 ・お薦めの本30冊達成者50%以上にする。	・読書タイムを週2回設定する。 ・読書ボランティア(月2回)・教師(学期に1回)による読み聞かせを実施する。 ・国語の単元に合わせて関連図書コーナーを設ける。 ・読書の良さや楽しさに付いて、お便りやブックトークで知らせる。
特 定 課 題	●低学年の学習環境の改善充実	・基本的学習習慣の定着 ・基本的生活習慣の定着	・先生や友達の発言を最後まで聞くことができる児童を80%以上にする。 ・正しい言葉遣いで最後まで、はっきり話すことができる児童を80%以上にする。 ・元気のよい挨拶や返事のできる児童を80%	・話をする人の方を見て聞くように指導する。 ・話し方を掲示し、機会があるごとに練習させる。 ・次の授業の準備をさせてから、休み時間をさせる。 ・教師自身が率先して手本を示しながら、臨場指導を心がける。

特 定 課 題			<p>以上にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・80%以上の児童が時間を守ることができる。 	
	○魅力ある学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習時間の増加 ・家庭読書の定着 ・時と場に応じた挨拶と言葉遣い ・手洗いうがいの定着 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年に応じた家庭学習時間を達成する児童を50%以上にする。 ・家庭で進んで読書に取り組む児童が65%以上になる。 ・挨拶や言葉遣いができる児童が80%以上になる。 ・手洗いやうがいを正しくできる児童を70%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活カレンダー」や家庭学習の手引きを活用し、家庭学習の意欲化を図る。 ・家庭訪問や学級懇談会等で家庭学習の大切さや取組みについて知らせ、協力を求める。 ・1～4年生は。読書回覧板を使ったファミリー読書に取り組む。 ・高学年は。週末の読書日記取り組む。 ・取組む状況について、学級便り等で知らせる。 ・優しさプロジェクト・PTA総務部が連携して、挨拶運動を展開する。(挨拶名人認定証) ・学校での呼びかけや地域・社会体育への啓発を行い、「さん・君運動」を定着させる。 ・寒天培養を掲示し手洗いの大切さを知らせる。 ・手洗い後のうがいを徹底させる。